

証憑管理業務の効率化を目指し 電子帳票システム「快速サーチャーGX クラウド」を導入

辻・本郷 税理士法人

日本各地に拠点を置き、税務や会計などにかかわる幅広いサービスを提供する辻・本郷 税理士法人は、インテックの電子帳票システム「快速サーチャー GX クラウド」を導入して証憑を電子化し、業務の効率化を実現しました。

プロフェッショナル集団として 税会計サービスを提供

辻・本郷税理士法人は、日本全国はもちろん、海外にも拠点を置く日本最大規模の税理士法人です。顧問先企業数12,000社を超える豊富な経験と実績、プロフェッショナル集団としての組織力を活かし、税務や会計などにかかわる幅広いサービスを高い水準で提供しています。

近年、国内では行政サービスの100%デジタル化、IT化へ向けた取り組みが加速しています。税務や会計分野でも、

e-文書法、電子帳簿保存法の改正などによって電子化が進み、2020年度以降は資本金1億円以上の企業は、法人税等の電子納税申告(e-Tax)が義務化されました。大企業が電子化すると、取引先である中小企業も対応しなくてはならず、多くの企業で税務、会計の電子化は一気に広がると予測されています。

膨大な紙の証憑管理にかかる 手間とコストが負担に

請求書や領収書の多くは、紙で郵送されるのが一般的。それらを精査して会計ソフトに入力し、保管するという作

業は、業種を問わずどこの企業でも日々行われています。

「当社でも、多い月には1,000枚以上の領収書や請求書をファイリングしていました。後日、請求書を見直したいときには、該当する紙を探し出すのが大変で、紙での業務が生産性を落とすということ、経営層含めて会社全体で感じていました」と、会長室(審理担当)の八重樫巧氏は語ります。

税に関する証憑には保存義務があるため、保管場所も確保する必要があります。紙の請求書や領収書をスキャンしてPDF形式の電子ファイルとして管



CLIENT PROFILE

法人名：辻・本郷 税理士法人

設立：2002年4月1日

住所：東京都新宿区新宿4-1-6 JR新宿ミライナタワー28階

従業員数：1,522名(税理士223名
公認会計士44名、2020年4月現在)

辻・本郷税理士法人 会長室(審理担当) 税理士・八重樫巧氏(右)
辻・本郷ITコンサルティング株式会社営業部部长 シニアコンサルタント
上級文書情報管理士/行政書士・松山孝志氏(左)

Process

課題



増え続ける紙の証憑管理に
手間もスペースも
コストがかかり、非効率



解決策



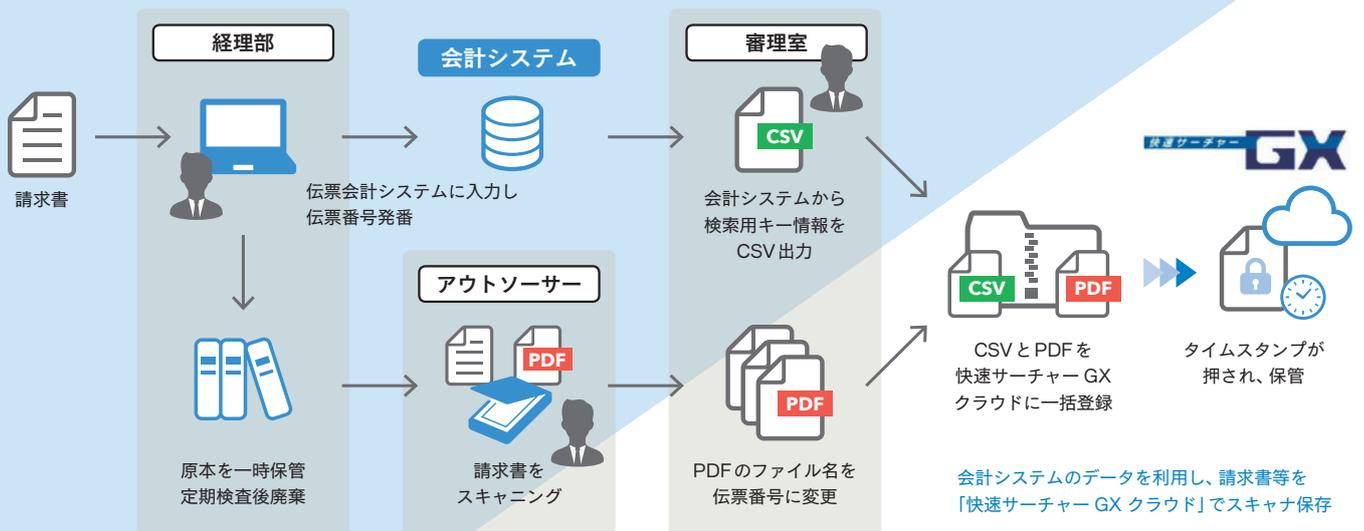
電子帳票システム
「快速サーチャー GX
クラウド」の導入



成果



RPAなどのITツールと
組み合わせることで、
業務の効率化を実現



会計システムのデータを利用し、請求書等を「快速サーチャー GX クラウド」でスキャン保存

理できれば、スペースの有効活用や家賃の削減につながります。

辻・本郷税理士法人は、2016年のオフィス移転をきっかけに、ペーパーレス、フリーアドレスへの取り組みを始め、それに合わせて、証憑の電子化についても検討することになりました。

顧客企業での導入のしやすさも踏まえ「快速サーチャー GX クラウド」を選定

2017年の終わりから半年くらいかけて、辻・本郷税理士法人ではいろいろな電子帳票システムを検討しました。求めていたのは電子帳簿保存法に対応し、顧客企業にも導入いただけるサービス。当時は適合するシステムが見当たらず、10社以上のベンダーにアプローチして要望を出しました。その要望に応え、インテックが開発したのが「快速サーチャー GX クラウド」です。

「快速サーチャー GX クラウド」はクラウドサービスのため、初期費用を抑え、低コストで月額利用が可能。またシステムの運用管理、セキュリティ対策、バックアップなどはインテックが実施するため、社内に専任のシステム管理者を置く必要がありません。中小企業でも導入しやすく、辻・本郷税理士法人のお客さまにも安心して勧められる点が評価されました。

「インテックを採用した理由は複数ありますが、コストや使いやすさ以外にセキュリティの確保もあります。クラウド

サービスには海外のサーバーを利用するものがありますが、会計データが海外のサーバーに置かれることを不安視するお客さまもいます。インテックはクラウドサービスの拠点であるデータセンターを国内で自社運営しており、セキュリティには万全を尽くしているという説明があったため、安心して採用することができました」と、辻・本郷税理士法人のIT部門を支援している辻・本郷ITコンサルティング株式会社営業部部長の松山考志氏は語ります。

最適な業務フローを調査し 業務の負荷を軽減して効率化を実現

辻・本郷税理士法人では、テストフェーズで、システムの操作方法の習得以外に、どのように作業をすれば効率的に証憑を電子化することができるか、最適な業務フローの調査を行いました。これにより、たとえばスキャン作業では請求書のホチキス留めをやめました。また、帳簿と請求書などを相互に関連付けさせるため、PDFファイル名を会計ソフトの伝票番号に置き換えることにしました。この作業を手入力で行うには多大な労力がかかるため、スキャナのOCR機能を活用し、読み取った伝票番号をPDFファイル名に自動で変換するプロセスを追加しました。

また、「快速サーチャー GX クラウド」に検索キーを入力する作業と、PDFファイルの登録作業を自動化するため

にRPAを利用しています。人間がPDFファイルの中身を確認し、日付、取引先、取引金額などの検索キーを一つひとつ手入力していたのではミスが発生しやすい上、会計ソフトへの入力と同様の作業のため、二度手間となってしまいます。この作業をRPAに置き換えることで、入力作業の正確性とスピードを大きく向上させました。

インテックはビジネスパートナーともに顧客企業の電子化を支援

「快速サーチャー GX クラウド」導入によって、検索キーを入力するだけで、膨大な書類の中から目的のものをすぐに見つけることが可能になりました。検索結果の画面には、スキャンした証憑の画像が表示されるため、紙の証憑と同じように確認ができます。

辻・本郷税理士法人では、証憑管理業務を効率化できたことで、税務や会計サービスのあり方が変わったと感じています。

「これからは会計や税務のサポートに加え、お客さまのビジネスに即して理解するスキル、お客さまのビジネスに資するコンサルティング能力がより重要になってくるでしょう」と八重樫氏は言います。

今後は顧客企業が電子化の流れに乗って業務の効率化を進められるように、インテックと協力しながら事業を展開していきたいと考えています。